

# まるの会

無資格無認可

検索



社会福祉基礎構造改革後、障害者施策は大きく変わってきた。

措置から契約へ

介護の社会化

選択できるサービス

など21世紀の体制をとえながら、それまでかかわってきた人たちに対し、制度内の介護について、「公金支出の担保」として「資格要件」が問われるようになった。

しかしながら、制度が整備される前から、「地域で共に生きる」ことを含言葉にかかわってきた人たちや、これからかかわろうとする人たちを排除するものだった。

子供のころより『介助』を必要とし、『介助』を受けてきた人たちは地域で自らが育ててきた『介助』を「同志」として大切にしようとした。

支援費制度ができ時、「みなし資格」を考えたり、「全身性障害者介護人派遣事業」を廃止したりした人たちは、それまで中心的にかかわってきた「同志」を『安くて、危ない』介助と決めつけ、「制度」から外していこうとした。

そして、「インフォーマルな介助」の必要性を言いながら、「インフォーマルな介助」は勝手にやってよと遠ざけてきた。

さらに最近では、「2級3級」ではだめだ。『介護福祉士』でなければ、そしてさらに、従来の介護福祉士ではだめだ「もっと高度なスキル」を持つ認定介護福祉士でなければと『介護福祉士養成協会』やそれを後押しする『専門家たち』は言う。利権の渦巻く『原子力村』と同じように『福祉村』の住民でなければかかわれない体制を築こうとしている。

ここに私たち、○や△や×達は《□(しかく)》に対抗すべく、全国無資格無認可スーパーマルチ介助者協会を立ち上げる準備を始めた。

気持ちさえあれば、だれでもかかわることのできる『社会』の創造を目的とする。

そして、通称 ○の会とよぶ。

## 全国無資格無認可スーパーマルチ介助者協会

設立準備会代表世話人 大坂富男

E-mail k-reds@symphony.plala.or.jp

<http://www4.plala.or.jp/musikaku-muninka/>